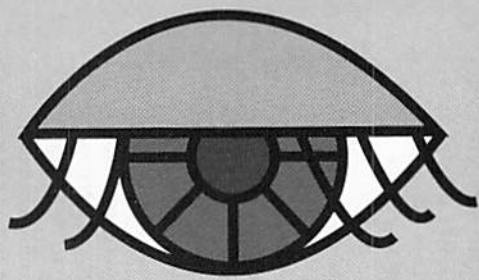


# FAME Report



京都ノミキ見トピックス

## 目指せ、名マエストロ。 輝くバンドネオンの星を……

神秘的なバンドネオンの響き。  
魅惑のタンゴが今宵あなたを虜に……

門奈紀生のバンドネオン教室は月1回。中京区あいのまちハウス5Fで午後1時～6時。申込み・問合せはソルーナまで。  
TEL075・211・9205



ワールド・ミュージックが根強い人気だ。ミュージシャンたちがロックやジャズのルーツを模索するうちにはまり、民衆の骨太な精神を伝える音が、聞き手の頬を打つ。一方で、エリック・クラプトンやステイニンググラッド、ビッグネームの「アンブラグド」(エレクトリックからアコースティック)への傾斜もある。街中に音楽はあふれるが、今リアルな音はなんなのか、に対するひとつの解答と言えよう。そこで華麗なるタンゴの世界への魅惑のお誘いだ。日本では60年代の大ブームのため、単なる世相のように思われがちなジャンルだが、タンゴのリズムはカラダが覚えていく。その旋律は初めて聞いてもなつかしい。京都では門奈紀生率いる「アストロリコ」の演奏が、タンゴの魅力を余すところなく伝えてくれる。

タンゴ・バンドの花形は、アコーディオンならぬバンドネオン。その音色は天使の羽はたきとも悪魔の囁きとも称され、楽器そのものと演奏者の息づかいの感じられる、変幻自在なトーンと歯切れの良さが魅力だ。生まれはドイツの教会、育ちはアルゼンチンの酒場と、その構造も性格も一筋縄ではいかぬ複雑さ。なにしろジャバラを開くときと閉じるときで、音階の並び具合が変わるのだ。そのため、現在では演奏者は激減してしまったが、海外旅行で魅せられ、ついつい買ってしまったマニアも少なくない。

彼らの要望で始まったのが門奈紀生によるバンドネオン教室。この性悪女を手をつけられ、タンゴ界の輝く名マエストロの座はまちがいない。日本で6本目の指に入る日はそう遠くないかも。

ライター 大音美弥子